

第9回「一宮の魅力ある海岸づくり会議」議事概要

日 時 : 平成26年3月9日(日) 午後2時30分~4時30分

場 所 : 一宮町保健センター1階

参加者 : 近藤会長, 宇多副会長, 清野委員, 秋山委員, 小川委員, 近藤委員, 小松委員, 芝本委員, 鶴沢委員, 谷口委員, 黒川委員, 利根川委員, 滝浪委員, 田村委員, 小関委員
欠席 : 鶴岡委員, 山口委員, 秦委員, 御園生委員, 吉野委員, 相委員, 秋場委員, 吉田委員, 松井委員, 岡本委員, 小柳委員,

【主な議事内容】

1. 粗粒材養浜について

(1) 予備試験施工の状況等

- ・これまで実施してきた浚渫土砂等(細砂)の養浜についても、ある程度の効果があったことに配慮する。(宇多副会長)
- ・粗粒材養浜は、あまり大規模ではなく、段階を経て、細かく分けて、実施することが良いと考えられる。(近藤委員)
- ・この会議では、事業を少しずつ実施して、問題があれば見直すというプロセスで進めてきており、今後もこの姿勢を継続する必要がある。(近藤会長)
- ・粗粒材と現地砂の混合状況(互層状態)を確認できるように、底質のサンプルは保存する必要がある。(宇多副会長)
- ・底質の粒度組成を中央粒径で表現する場合には、中央粒径からのバラツキを示す淘汰率(淘汰度)を併せて記載する必要がある。(秋山委員)
- ・底質の粒度組成は、細砂や中砂などの含有率で整理することが望ましい。(宇多副会長)
- ・粗粒材の磨耗状況を把握するために、円磨度の経時的な変化を追跡することが望ましい。(清野委員)

(2) 事前調査(生物調査)結果

- ・2号ヘッドランド南側の対照区における調査は、生物量も多く、非常に重要である。(清野委員)
- ・今回の調査結果では、九十九里浜の代表的な渡り鳥であるミコビシギの重要な餌料生物のヒメスナホリムシが出現していない。ヒメスナホリムシは、潮間帯に生息している重要な生物であり、春と秋にピークとなり、冬は少なくなる。ヒメスナホリムシが出現していない理由として、潮間帯が狭いことが考えられる。(秋山委員)
- ・微妙な地形や底質の違いによって、貝の生息状況が異なっているようである。(清野委員)
- ・海生生物調査時には底質の採取も必要であり、底質と併せて生態系がイメージできるように整理することが望ましい。また、鳥類の調査も実施することが望ましい。(清野委員)
- ・調査結果については、地形や底質の変化等の物理環境との対比による解釈・考察も必要である。(宇多副会長)

2. ヘッドランド整備について

(1) 小突堤の整備

- ・ 2-3号ヘッドランド間の小突堤の設置については、既に了解が得られているが、施工時期については、サーファーや海岸利用者との兼ね合いを考慮して決定することが必要である。(近藤会長)
- ・ 小突堤は、海水浴場に設置されるので、利用ができない構造では意味がない。(芝本委員)
- ・ 禁止しても小突堤には人が立ち入ることから、施工業者の企業努力によって、捨石の隙間に子供の足が入らないようにきれいに施工させる。(近藤会長)
- ・ 千葉県のを育てるという意味でも、小突堤の工事は丁寧に行って欲しい。また、2号-3号ヘッドランド区間は、構造物が隠れるくらいの量の養浜砂を投入することが望ましい。(清野委員)
- ・ 小突堤の設置によって流れが変化する(離岸流の発生等の)可能性があるので、シミュレーションによって確認を行い、必要に応じて看板の設置も考える。(近藤会長)
- ・ 小突堤と養浜をセットで行って捨石を砂が覆うような形にすることが望ましく、付け根の大半の部分は砂が覆う可能性が高いことから、養浜を十分に行うことが必要である。(宇多副会長)

3. その他

- ・ 清野委員から、海岸法改正に関する話題提供があり、海岸の保全に関し必要な措置について協議を行うための協議会を組織することができると、協議会が条文に明示されたことは画期的であること、一宮海岸の取り組みが地域の意見を反映した仕組みの成功例として取り上げられていることなどの説明があった。
- ・ 次回の会議の開催は、10月のモニタリング調査の実施後を予定する。